

10/1 (木)

読光 (朝刊)

津波7メートル「村が消えた」

サモア地震

【シドニー＝岡崎哲】南太平洋のサモア諸島沖で29日朝（日本時間30日未明）に発生した地震による死者は、サモアと米領サモア、トンガで少なくとも計113人に達した。AFP通信が伝えた。依然として多数の住民や旅行者が行方不明になっており、犠牲者数はさらに増える恐れがある。

特に被害が大きかった米領サモアからの情報によると、ツツイラ島にある政庁所在地パゴパゴでは、津波の影響で都市機能が完全にマヒ。タフナ国際空港も津波をかぶって閉鎖した。地元当局者はAFP通信に対し、「津波は最大で高さ約7メートルに達した」と述べた。地震発生から津波の到達までは約20分で、犠牲者のほとんどは逃げ遅れて津波にのまれたという。

パゴパゴ在住の豪州女性性は津波の瞬間を目撃し、豪国営ABCテレビに対し、「高台から海岸を見てみると、家や人が次々に津波にのみ込まれていった」と泣きながら語った。独立国サモアで最大のウポル島東部で、丘に避難した女性（21）は豪ABCテレビに対し、「死の津波は天に届くぐらいの高さで、ただただ高台を目指して走った。何もかも失い、村が跡形もなく消えた」と語った。サモアを管轄する在ニュージーランド大使館は30日、在留届を提出していた邦人107人全員と、在留届を出さずに滞在していた12人について無事を確認した。ただ、在留届を出さずに滞在している人がほかにもいる可能性はあるという。

サモアは29日、豪州、ニュージーランド、フランスに災害復旧支援を要請。ニュージーランドは哨戒機を現地に派遣。米沿岸警備隊も連邦緊急事態管理庁（FEMA）の援助チームを乗せたC-130輸送機をハワイから米領サモアへ向かわせた。